

## 新旧対照表

第9回北海道開発分科会(H19.12.11) 資料	変更案	頁	行
<p>第1章 計画策定の意義</p> <p>第2節 新たな北海道総合開発計画の意義 北海道開発の基本的な意義は、北海道の資源・特性を活かして、<u>その時々</u>の国の課題の解決に貢献するところにある。</p> <p>第4章 計画の主要施策</p> <p>第1節 グローバルな競争力ある自立的安定経済の実現 1. 食料供給力の強化と食にかかわる産業の高付加価値化・競争力強化</p> <p>このため、生産・加工・流通等の食にかかわる産業において、<u>安全性や高品質性を確保することにより</u>高付加価値化を図り、海外の農水産物や食品にも対抗し得るように競争力を強化し、あわせて、輸出促進を図ることが重要である。</p> <p>(1)食料供給力の強化</p> <p>(農産物の供給力強化)</p> <p>また、法人化等を含めた効率的な経営体の育成及び円滑な新規就農を可能とする取組や、施設野菜・園芸や肉牛の導入等による経営の複合化及び農家等による農産物加工・直売、<u>農家民宿や農家レストラン</u>等の起業による経営の多角化へ向けた取組等を促進する。</p>	<p>第1章 計画策定の意義</p> <p>第2節 新たな北海道総合開発計画の意義 北海道開発の基本的な意義は、北海道の資源・特性を活かして、<u>国の課題</u>の解決に貢献するところにある。</p> <p>第4章 計画の主要施策</p> <p>第1節 グローバルな競争力ある自立的安定経済の実現 1. 食料供給力の強化と食にかかわる産業の高付加価値化・競争力強化</p> <p>このため、生産・加工・流通等の食にかかわる産業において、<u>食品の安全を確保した上で</u>、高付加価値化を図り、海外の農水産物や食品にも対抗し得るように競争力を強化し、あわせて、輸出促進を図ることが重要である。</p> <p>(1)食料供給力の強化</p> <p>(農産物の供給力強化)</p> <p>また、<u>地域農業の維持・発展につながる法人化等</u>の効率的な経営体の育成・確保及び<u>多様な人材の円滑な新規就農を促進</u>する。 さらに、施設野菜・園芸や肉牛の導入等による経営の複合化及び農家等による農産物加工・直売や<u>農家民宿、農家レストラン</u>等の起業による経営の多角化へ向けた取組等を促進する。</p>	2	2～3
		8	24～26
		9	6～10

第9回北海道開発分科会(H19.12.11) 資料	変更案	頁	行
<p><b>(2)食の安全の確保</b>  安全な農水産物の生産や農水産物・加工食品の品質管理の高度化等を通じ食の安全を確保することが重要である。  このため、農業生産や食品加工の現場段階において、GAP(農業生産工程管理手法)やHACCP(危害分析・重要管理点方式)の導入等による食品の安全確保へ向けた取組を促進する。</p> <p><b>(3)食にかかわる産業の高付加価値化・競争力強化</b>  また、地域のイメージとの関連付けによる相乗効果の発現や北海道ならではの農水産物の利用等による新たな食のブランドの確立へ向けた取組を促進する。  さらに、輸出促進へ向け、情報の収集及び発信、海外市場開拓機能の形成等、販路の拡大を支援する。</p>	<p><b>(2)食の安全の確保</b>  安全な農水産物の生産や、農水産物・加工食品の品質管理の高度化等を通じ、<u>生産段階から食卓まで一貫した食の安全を確保することが重要である。</u>  このため、農業生産や食品加工の現場段階において、GAP(農業生産工程管理手法)やHACCP(危害分析・重要管理点方式)の導入<u>及び流通段階における衛生管理施設の整備等</u>、食品の安全確保へ向けた取組を促進する。</p> <p><b>(3)食にかかわる産業の高付加価値化・競争力強化</b>  また、地域のイメージとの関連付けによる相乗効果の発現や北海道ならではの農水産物の利用等による新たな食のブランドの確立へ向けた取組とともに、<u>地域産業の活性化につながる地産地消の推進等、消費者と生産者等の結びつきの強化</u>に向けた取組を促進する。  さらに、<u>東アジア地域等への農水産物・加工食品の輸出促進</u>へ向け、情報の収集及び発信、海外市場開拓機能の形成等、販路の拡大を支援する。</p>	9	23～27
<p><b>2. 国際競争力の高い魅力ある観光地づくりに向けた観光の振興</b>  また、北海道における観光は、食にかかわる産業を始め他の産業分野の雇用を創出するなど波及効果が大きいことから、地域におけるリーディング産業としての役割が期待されている。</p> <p><b>(1)国際競争力の高い魅力ある観光地づくり</b>  <b>(地域固有の魅力を活かした個性豊かな観光地づくり)</b>  北海道は、アジアの中でも特徴的な自然環境等を有しており、<u>これらを活かして</u>、旅行者ニーズの多様化に対応した、国際的にも個性豊かな観光地づくりを進める必要がある。</p>	<p><b>2. 国際競争力の高い魅力ある観光地づくりに向けた観光の振興</b>  また、北海道における観光は、食にかかわる産業を始め他の産業分野の雇用を創出するなど波及効果が大きいことから、地域におけるリーディング産業としての役割が期待されている。  <u>なお、旅行者ニーズの多様化、観光分野での国際競争・地域間競争の激化等観光をめぐる諸情勢に著しい変化が生じており、これらに適切に対処する必要がある。</u></p> <p><b>(1)国際競争力の高い魅力ある観光地づくり</b>  <b>(地域固有の魅力を活かした個性豊かな観光地づくり)</b>  北海道は、アジアの中でも特徴的な自然環境等を有しており、<u>地域それぞれが持つ資源・特性を活かして</u>、旅行者ニーズの多様化等に対応した、国際的にも個性豊かな観光地づくりを進める必要がある。</p>	10	12～15
		10	16～17
		10	24～28
		10	31～33

第9回北海道開発分科会(H19.12.11) 資料	変更案	頁	行
<p>第2節 地球環境時代をリードし自然と共生する持続可能な地域社会の形成</p> <p>(3)低炭素社会の形成</p> <p>(温室効果ガス吸収源対策の推進)</p> <p>このため、間伐等の適切な森林の整備・保全等を推進するとともに、国民一人一人の行動を促す観点から、地域住民、NPO等との協働による国民参加の森づくり等の取組を推進する。また、道路、河川の緑化や公園、港湾緑地の整備等を推進する。</p> <p>第4節 内外の交流を支えるネットワークとモビリティの向上</p> <p>(1)国内外に開かれた広域交通ネットワークの構築</p> <p>(国際競争力を高めるための物流ネットワーク機能の強化)</p> <p>[脚注] RORO船:貨物をトラックやフォークリフトで積み卸すために、船尾や船側にゲートを有する船舶。</p> <p>(2)地域交通・情報通信基盤の形成</p> <p>(地域の実情に即したモビリティの確保)</p> <p>[脚注] DMV:道路と線路の両方の走行が可能な車両。</p>	<p>第2節 地球環境時代をリードし自然と共生する持続可能な地域社会の形成</p> <p>(3)低炭素社会の形成</p> <p>(温室効果ガス吸収源対策の推進)</p> <p>このため、間伐等の適切な森林の整備・保全等を推進するとともに、国民一人一人の行動を促す観点から、地域住民、NPO等との協働による国民参加の森林づくり等の取組を推進する。また、道路、河川の緑化や公園、港湾緑地の整備等を推進する。</p> <p>第4節 内外の交流を支えるネットワークとモビリティの向上</p> <p>(1)国内外に開かれた広域交通ネットワークの構築</p> <p>(国際競争力を高めるための物流ネットワーク機能の強化)</p> <p>[脚注] RORO船:<u>ロールオン・ロールオフ(Roll on/Roll off)船の略</u>。貨物をトラックやフォークリフトで積み卸すために、船尾や船側にゲートを有する船舶。</p> <p>(2)地域交通・情報通信基盤の形成</p> <p>(地域の実情に即したモビリティの確保)</p> <p>[脚注] DMV(Dual Mode Vehicle):道路と線路の両方の走行が可能な車両。</p>	<p>17</p> <p>21</p> <p>22</p>	<p>20～22</p>

第9回北海道開発分科会(H19.12.11) 資料	変更案	頁	行
<p>(3)冬期交通の信頼性向上</p> <p>[脚注] ILSの双方向化:航空機の着陸において、低視程時や悪天候時においても安全に着陸できる機会が増加する計器着陸装置(ILS)を滑走路の一方からの進入だけでなく双方向からの着陸に対応できるようにするもの。</p> <p>第5節 安全・安心な国土づくり</p> <p>(2)ハード・ソフト一体となった総合的な防災・減災対策の推進</p> <p>(地域防災力を向上させる取組の推進)</p> <p>さらに、NPO等との協働による防災教材の作成・普及等、地域における防災教育活動を支援する取組を強化するとともに、防災関係機関と地域住民が参加する防災訓練の実施など、地域との協働による防災対策の取組を推進する。</p>	<p>(3)冬期交通の信頼性向上</p> <p>[脚注] ILSの双方向化:航空機の着陸において、低視程時や悪天候時においても安全に着陸できる機会が増加する計器着陸装置(ILS:Instrument Landing System)を滑走路の一方からの進入だけでなく双方向からの着陸に対応できるようにするもの。</p> <p>第5節 安全・安心な国土づくり</p> <p>(2)ハード・ソフト一体となった総合的な防災・減災対策の推進</p> <p>(地域防災力を向上させる取組の推進)</p> <p>さらに、NPO等との協働による防災教材の作成・普及等、地域における防災教育活動を推進するとともに、防災関係機関と地域住民が参加する防災訓練の実施など、地域との協働による防災対策の取組を推進する。</p>	<p>23</p> <p>25</p>	<p></p> <p>4～6</p>